

平成18年社会生活基本調査 生活行動に関する結果

－ 埼玉県の概要 －

1 インターネットの利用

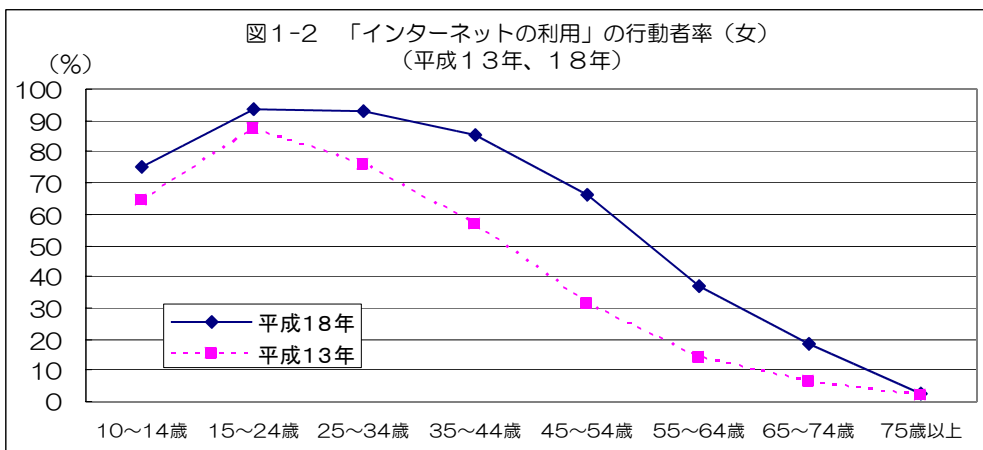
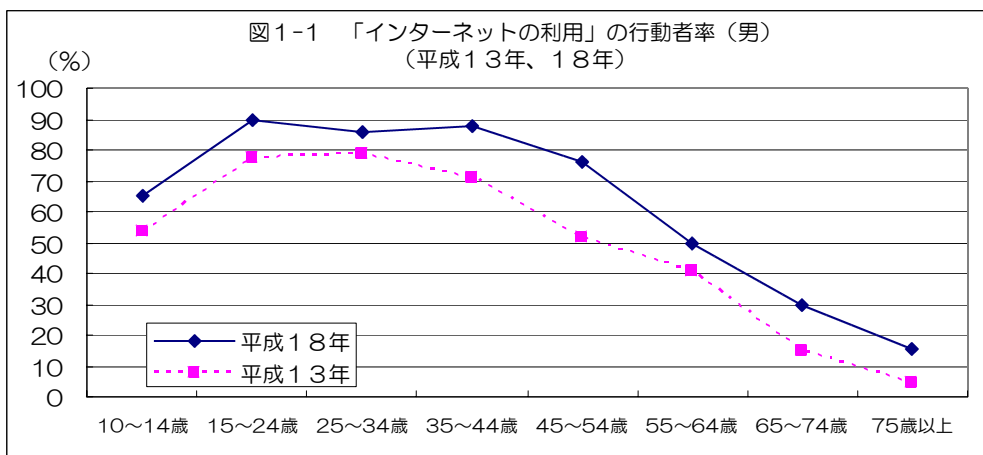
(1) 男性の67.8%、女性の61.4%がインターネットを利用

過去1年間（平成17年10月20日～18年10月19日。以下同じ）にインターネットを利用した者（10歳以上。以下同じ。）は4,091千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ）は64.6%となっている。

男女別でみると、男性が2,163千人、女性が1,928千人となっており、行動者率は男性が67.8%、女性が61.4%で、男性が女性より6.4ポイント高くなっている。

これを、年齢階級別にみると、男女とも15～24歳が最も高く、男性が90.0%、女性が93.9%となっている。

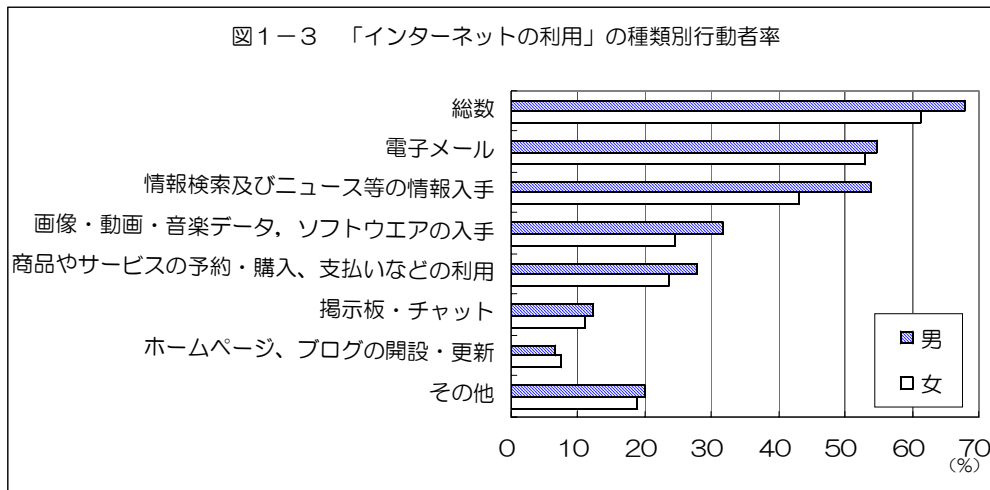
行動者率を平成13年（51.1%）と比べると、13.5ポイント上昇している。また、年齢階級別行動者率を平成13年と比べると、男女とも45～54歳の上昇率が最も高く、男性が24.7ポイント、女性が34.9ポイントと上昇している。（図1-1、図1-2）



(2) 種類別の利用者の割合は「電子メール」の53.9%が最も高い

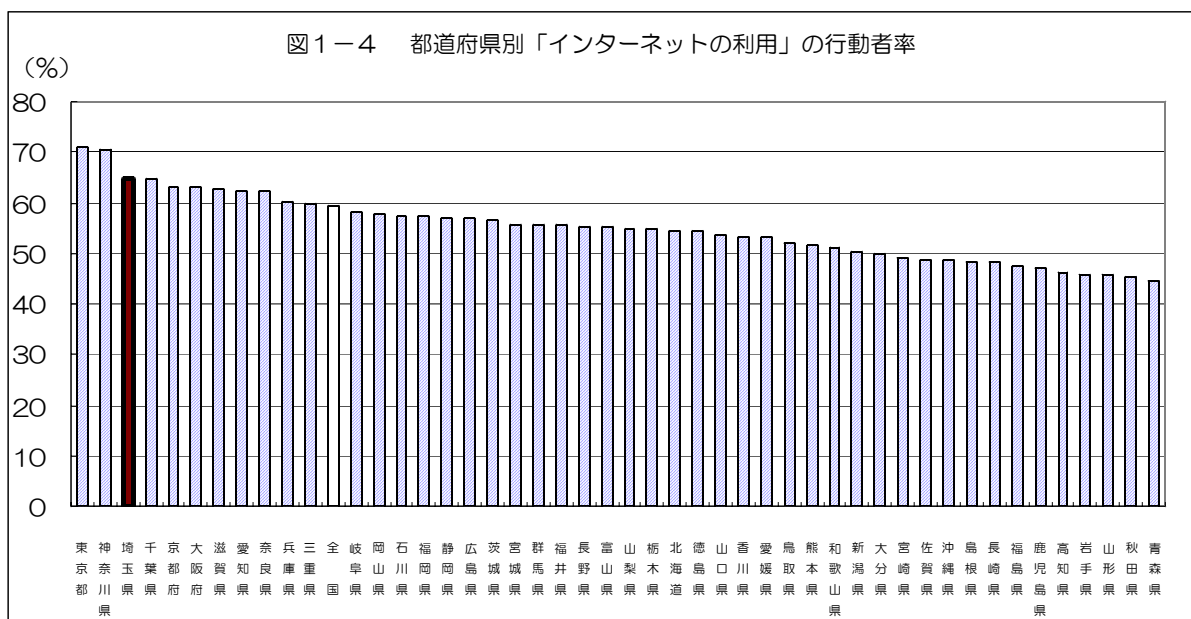
「インターネットの利用」の種類別に行動者率をみると、「電子メール」の53.9%が最も多く、ついで「情報検索及びニュース等の情報入手」が48.4%となっている。

男女別にみると、「ホームページ、ブログの開設・更新」を除き、男性の行動者率が高くなっている。(図1-3)



(3) 県民のインターネット利用者の割合は全国第3位

「インターネットの利用」の行動者率を都道府県別にみると、東京都が70.8%と最も高く、ついで神奈川県が70.7%であり、埼玉県は千葉県と同じ第3位(64.6%)となっている。(図1-4)



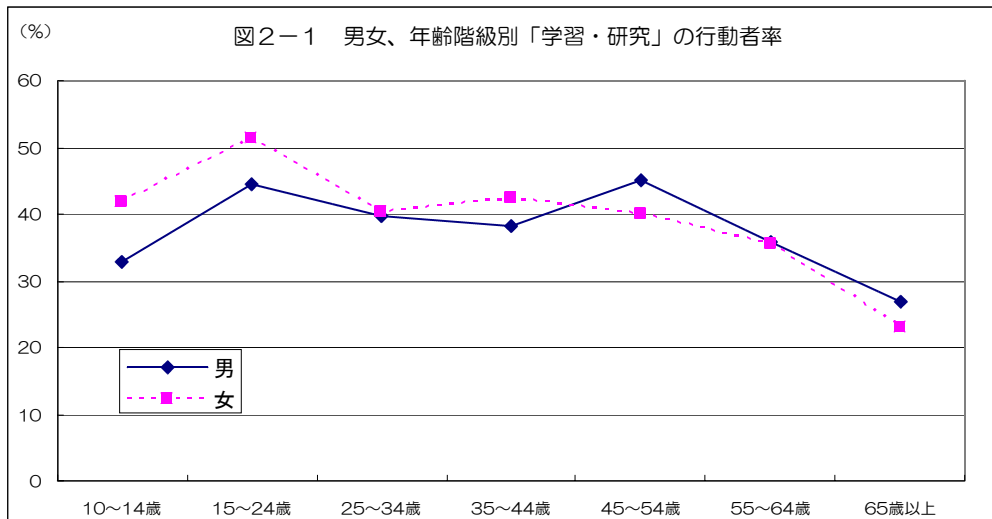
2 学習・研究

(1) 「学習・研究」を行った県民は2,383千人、割合は37.7%

過去1年間に何らかの「学習・研究」を行った人は2,383千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は37.7%となっている。

男女別でみると、男性が1,200千人、女性が1,183千人となっており、行動者率は男性が37.6%、女性が37.7%となっている。

これを、年齢階級別にみると、男性は45～54歳が最も高く45.2%、女性は15～24歳が最も高く51.2%となっている。（図2-1）

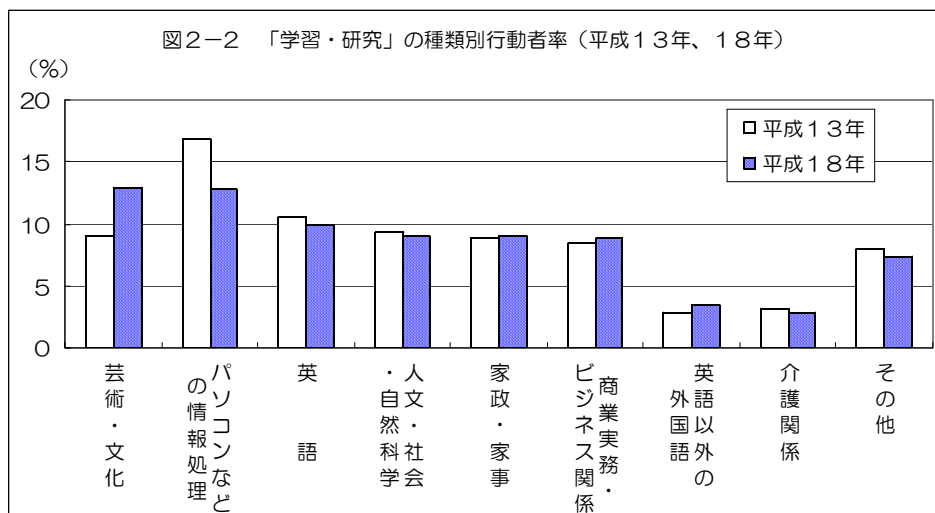


(2) 「学習・研究」の種類別の割合は、「芸術・文化」の12.9%が最も高い

「学習・研究」の種類別に行動者率をみると、「芸術・文化」の12.9%が最も多く、ついで「パソコンなどの情報処理」が12.8%となっている。

（図2-2）

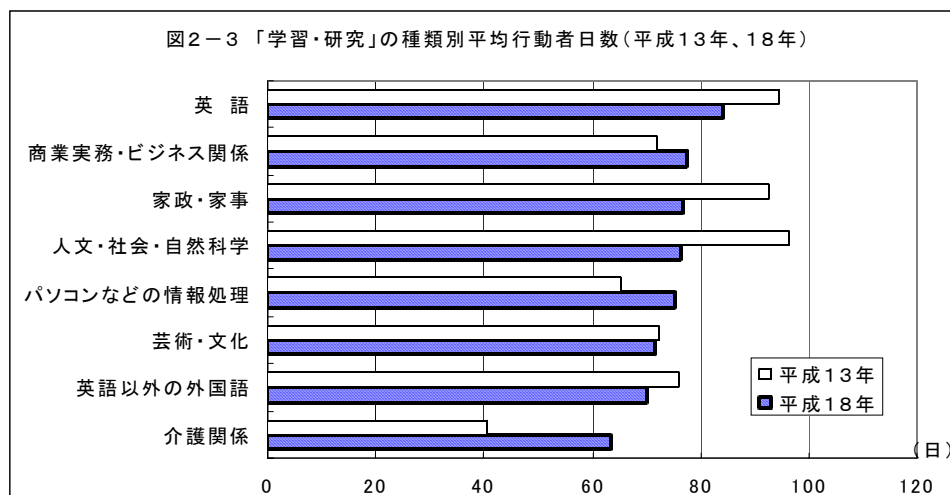
男女別にみると、女性に比べ男性の行動者率が高いのは「商業実務・ビジネス関係」、「パソコンなどの情報処理」などとなっており、男性に比べ女性の行動者率が高いのは「家政・家事」、「芸術・文化」などとなっている。



(3) 1年間の平均日数は「英語」が最も多い

「学習・研究」の1年間の平均行動日数をみると、「英語」が84.0日と最も多く、次いで「商業実務・ビジネス関係」が77.4日などとなっており、最も少ないのは「介護関係」の63.4日となっている。

平均行動日数を平成13年と比べると、「介護関係（22.7日増）」、「パソコンなどの情報処理（10.1日増）」、「商業実務・ビジネス関係（5.5日増）」で増加している。（図2-3）

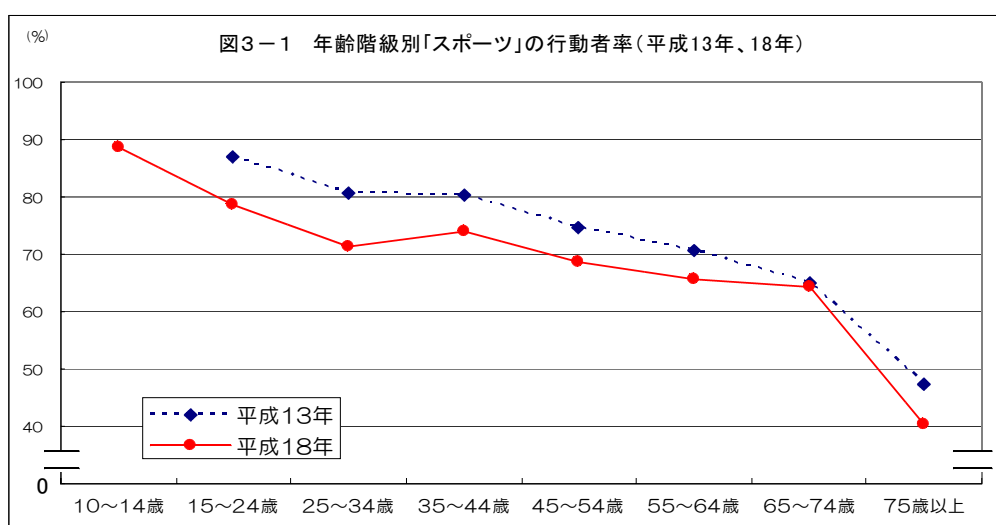


3 スポーツ

(1) 「スポーツ」を行った県民の割合は、5年前より7.2ポイント低下

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は4,397千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は69.5%だった。

行動者率を平成13年（76.7%）と比べると、7.2ポイント低下している。また、年齢階級別行動者率を平成13年と比べると、すべての階級で低下しており、特に、大きく低下しているのは、25～34歳の9.4ポイント、15～24歳の8.1ポイントなどとなっている。（図3-1）



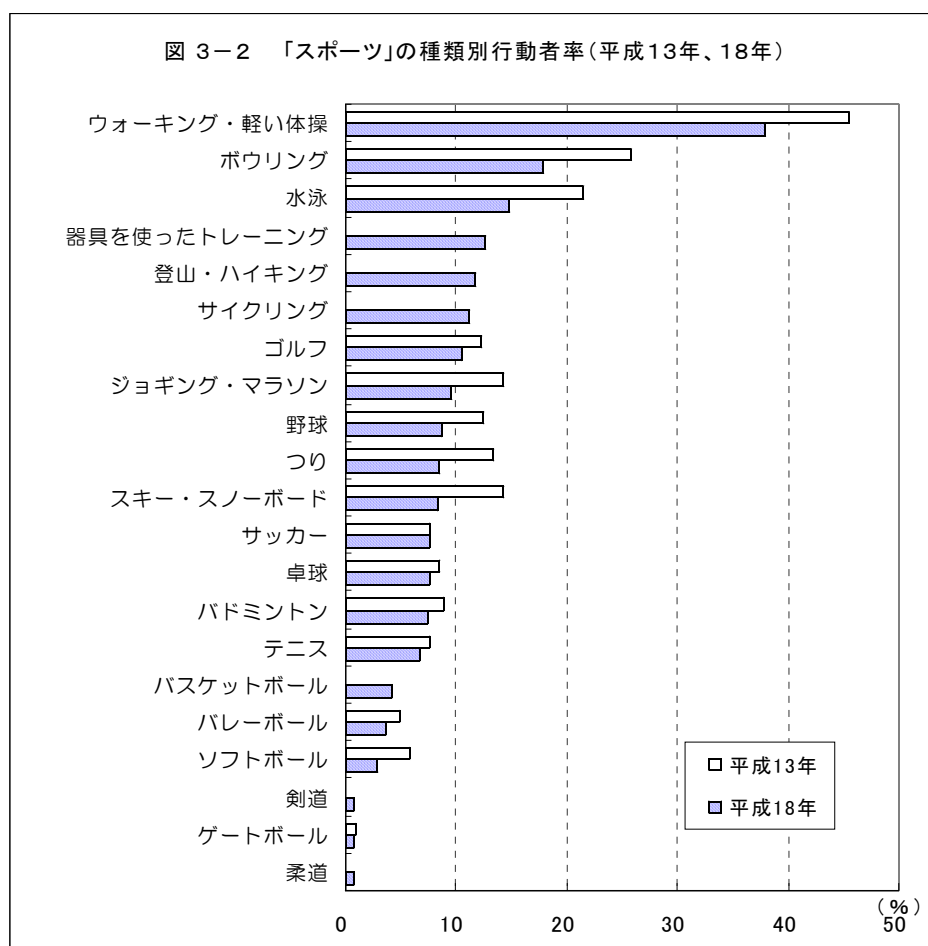
※ 平成13年調査では、「10～14歳」の集計なし

(2) 「スポーツ」の種類別の割合、上位3位は5年前と同じ

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が37.9%で最も高く、次いで「ボウリング」の17.9%、「水泳」の14.8%の順となっている。(図3-2)

比較可能な「スポーツ」の種類別行動者率を平成13年と比べると、7.6%で同率だった「サッカー」を除き、すべての種類で低下している。

なお、平成8年、13年と行動者率全国第1位の「サッカー」は山梨県に次ぐ第2位となった。



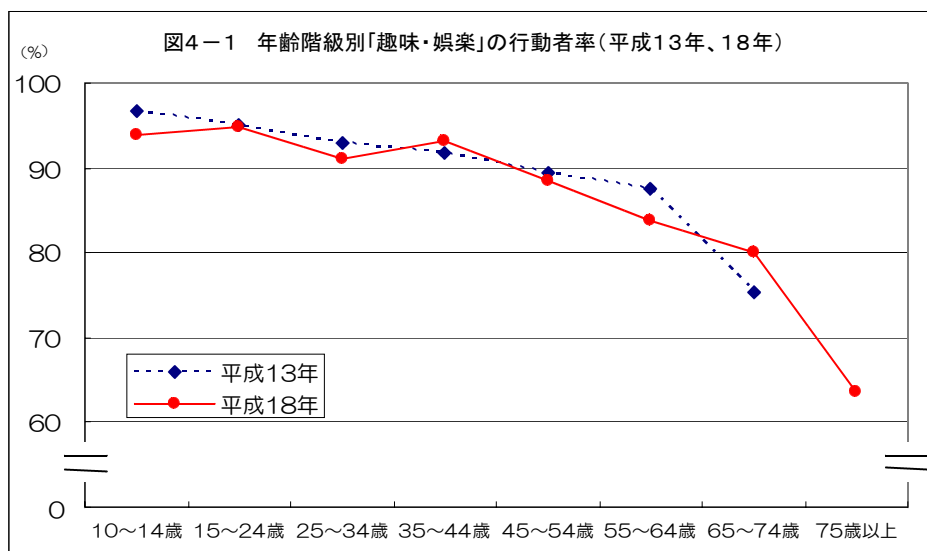
4 趣味・娯楽

(1) 「趣味・娯楽」を行った県民の割合は、5年前より2.0ポイント低下

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は約5,528千人(10歳以上。以下同じ。)で、行動者率は87.3%となっている。

男女別でみると、男性が2,772千人、女性が2,756千人となっており、行動者率は男性が86.9%、女性が87.8%で、女性が男性より0.9ポイント高くなっている。

行動者率を平成13年(89.3%)と比べると、2.0ポイント低下している。



※ 平成13年調査では、年齢階級「65~74歳」及び「75歳以上」を「65歳以上」で集計

(2) 「趣味・娯楽」の種類別の割合は、「CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞」の56.3%が最も高い

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「CD、テープ、レコードなどによる音楽鑑賞」の56.3%が最も多く、ついで「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)」の49.5%、「趣味としての読書」の45.4%の順となっている。

これを、年齢階級別にみると、10~14歳では「テレビゲーム」、15~54歳では「CD、テープ、レコードなどによる音楽鑑賞」、55歳以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。(表1)

表1 年齢階級別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位

	1位	2位	3位
10~14歳	テレビゲーム、パソコンゲーム (家庭で行うもの、携帯用を含む)	映画鑑賞(テレビ・ビデオ等は除く)	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞
15~24歳	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)	テレビゲーム、パソコンゲーム (家庭で行うもの、携帯用を含む)
25~34歳	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)	遊園地、植物園、水族館
35~44歳	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)	遊園地、植物園、水族館
45~54歳	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)	趣味としての読書
55~64歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞
65~74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	遊園地、植物園、水族館
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞

5 ボランティア活動

(1) 「ボランティア活動」を行った県民の割合は、5年前より2.6ポイント低下

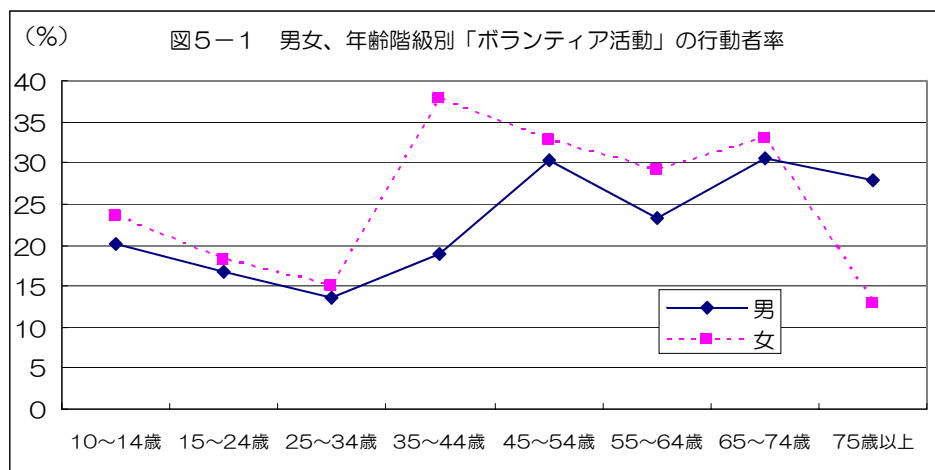
過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は1,524千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は24.1%となっている。

男女別にみると、男性が699千人、女性が825千人となっており、行動者率は男性が21.9%、女性が26.3%で、女性が男性より4.4ポイント高くなっている。

行動者率を平成13年（26.7%）と比べると2.6ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が2.0ポイント低下、女性が3.3ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、65～74歳が31.7%と最も高く、25～34歳が14.2%と最も低くなっている。

これを男女別にみると、75歳未満では女性の方が高く、75歳以上では男性の方が高くなっている。（図5-1）

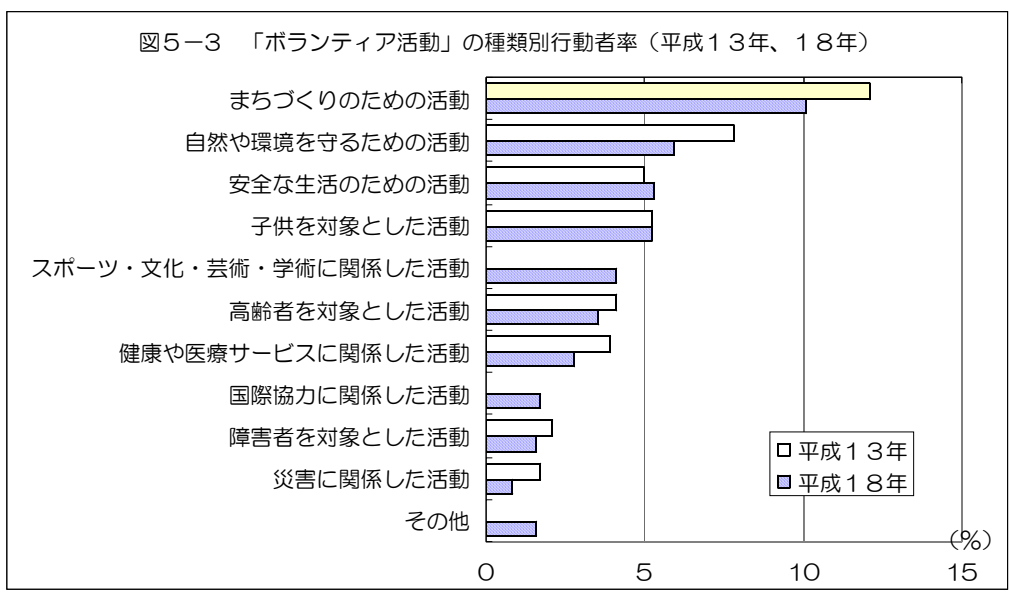
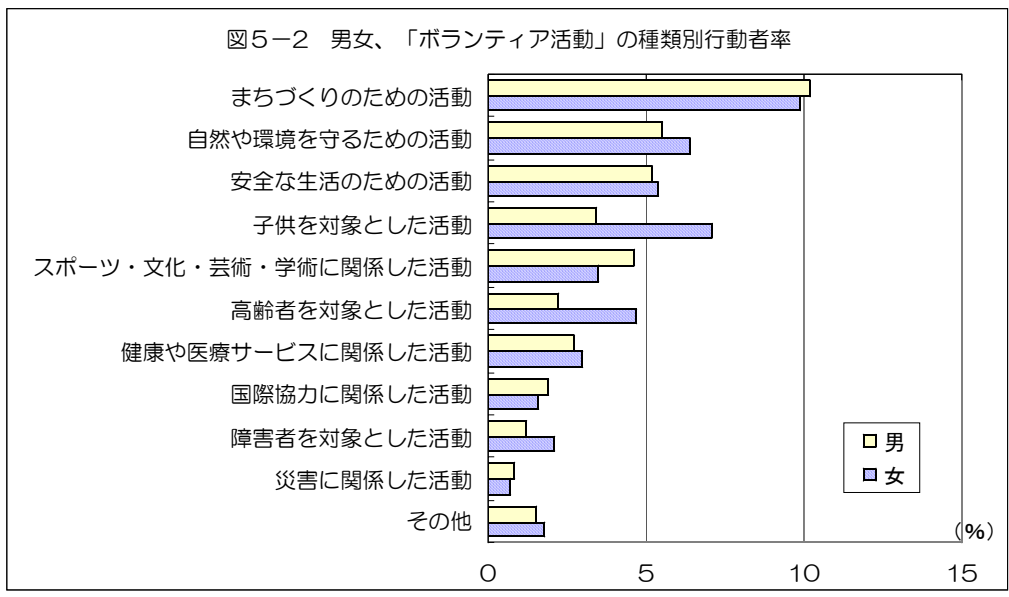


(2) 「ボランティア活動」の種類別の割合は、「まちづくりのための活動」の10.1%が最も高い

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が10.1%と最も高く、次いで「自然や環境を守るための活動」が5.9%、「安全な生活のための活動」が5.3%などとなっている。

これを男女別にみると、男女共に「まちづくりのための活動」が最も高く、ついで男性は「自然や環境を守るための活動」、「安全な生活のための活動」、女性は「子供を対象とした活動」、「自然や環境を守るための活動」などとなっている。（図5-2）

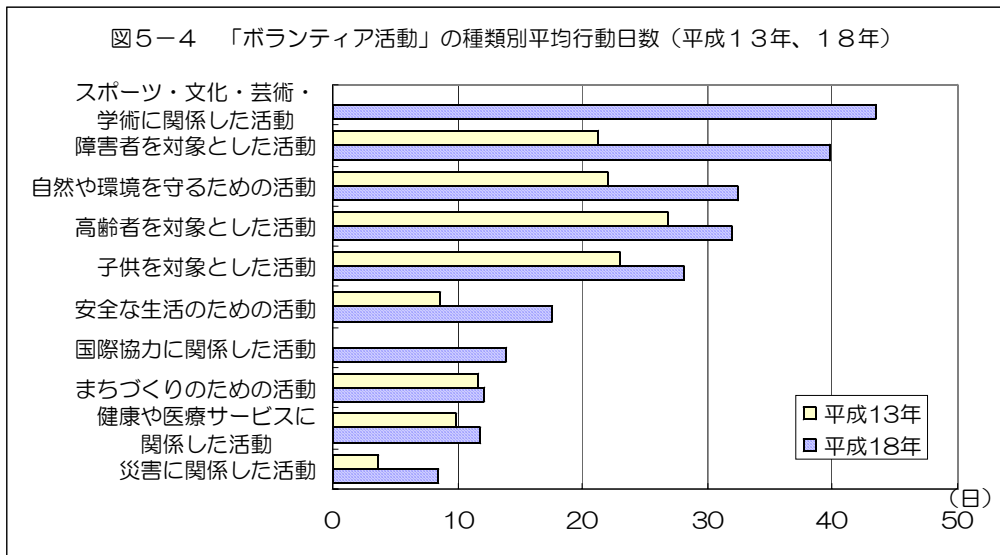
比較可能な「ボランティア活動」の種類について、平成13年と比べると、「安全な生活のための活動」のみ上昇している。（図5-3）



(3) 1年間の平均日数は、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が最も多い

「ボランティア活動」の1年間の平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関する活動」が43.3日と最も多く、次いで「障害者を対象とした活動」が39.8日、「自然や環境を守るための活動」が32.5日、「高齢者を対象とした活動」が31.9日などとなっており、最も少ないのは「災害に関係した活動」で8.4日となっている。

比較可能な「ボランティア活動」の種類について、平成13年と比べると、すべての種類で平均行動日数は増加している。(図5-4)



6 旅行・行楽

(1) 「旅行・行楽」を行った県民の割合は、5年前に比べ6.2ポイント低下した

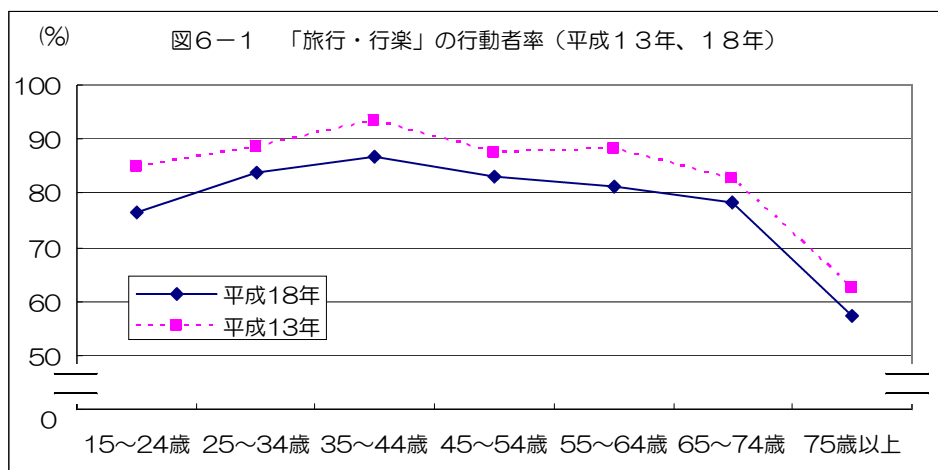
過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は5,109千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は80.7%となっている。

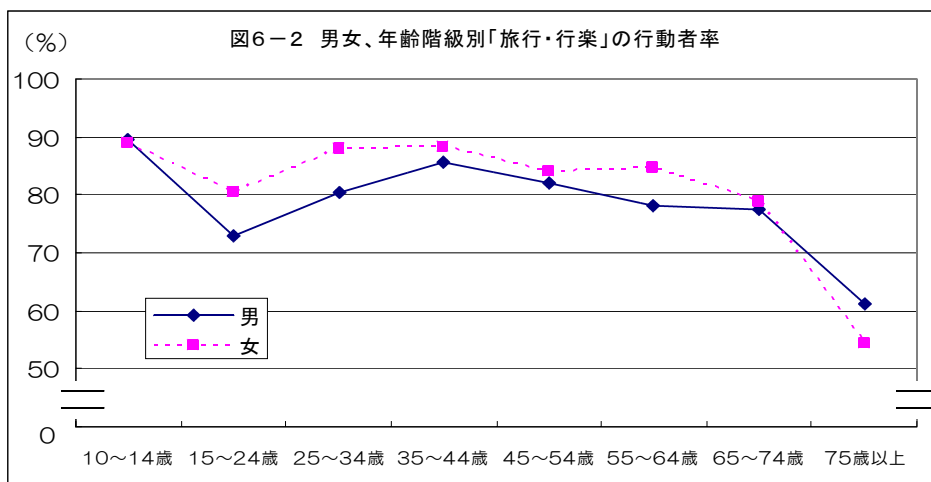
男女別にみると男性が2,529千人、女性が2,581千人となっており、行動者率は男性が79.3%、女性が82.2%で、女性が男性より2.9ポイント高くなっている。

行動者率を平成13年（86.9%）と比べると、6.2ポイント低下しており、これを男女別に見ると、男性が6.4ポイント低下、女性が5.9ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳から年齢が高くなるにつれて上昇し、35～44歳で86.8%と最も高くなり、45歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。（図6-1）

これを男女別にみると、10～14歳及び75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図6-2）





(2) 「旅行・行楽」の種類別の割合は、「行楽（日帰り）」の62.0%が最も高い

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が62.0%、観光旅行では、国内が56.1%、海外が9.5%となっている。

これを男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。（図6-3）

平成13年と比べると、「業務出張・研修・その他（海外）」を除くすべての種類で行動者率は低下している。

「旅行・行楽」の種類別の行動者率を男女別年齢階級別にみると、「観光旅行（国内）」では、男性は65~74歳が最も高く、次いで35~44歳と続いており、女性は10~14歳が最も高く、次いで35~44歳の順となっている。

「観光旅行（海外）」については、男性、女性ともに25~34歳が最も高くなっている。（図6-4）

